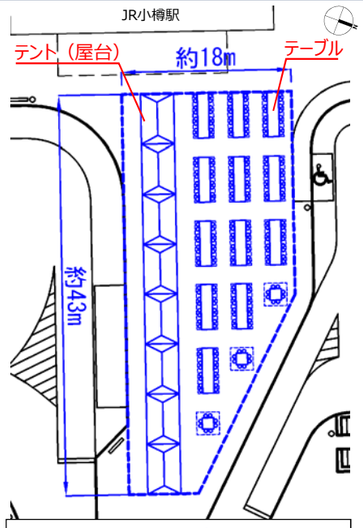
■オープンスペースの活用イメージ

現在想定しているオープンスペースでは、図-1のようなテントやテーブルの配置が可能であり、富山市の活用事例から、ビアガーデンや特産物の物販イベント等の交流スペースとしての活用が考えられる。



イベント面積：約660㎡
店舗数：8店舗
座席数：16人×12テーブル=192座席
8人× 3テーブル= 24座席
計 216座席

配置根拠
・テント：業務用5330×3530
・テーブル：1200×4800、1200×1200
・通行スペース：2m以上（2人歩き、すれ違いを考慮）
〈都市公園技術標準解説書より〉

図-1 活用イメージ図（Plan①）

◇JR富山駅南口広場 （出典：富山市HP（https://www.city.toyama.toyama.jp/index.html）

◇イベント事例

ビアガーデン
（イベントスペースC：イベント面積660㎡）

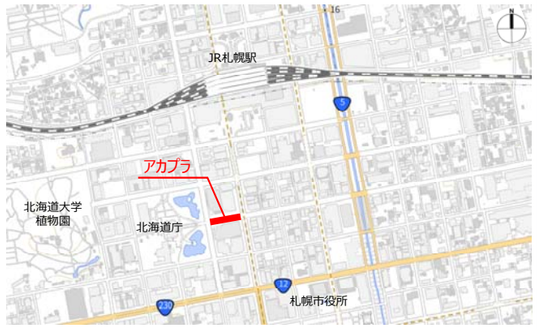
特産物販売イベント
（イベントスペースD：イベント面積620㎡）

■まちなかのオープンスペースの活用事例

（出典：全国まちなか広場研究会（http://ma

▼富山市まちなか賑わい広場「グランドプラザ」（幅約20m×長さ約65m）

▼札幌市北３条広場「アカプラ」（幅約15m×長さ約95m）



■災害時におけるオープンスペースの役割と規模

駅前広場のオープンスペースは、災害時の「一時退避場所」としての役割を検討しており、その規模は、「防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン」を準用し、500㎡以上とする。

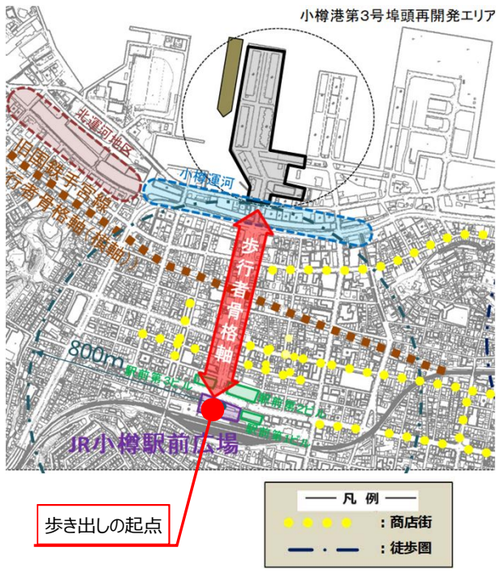
種 類	規 模（目安）	役 割	主な役割
帰宅支援場所の機能を有する都市公園	面積500㎡以上	主として、都心部から郊外部への帰宅者の支援場所となる	〈発災～概ね3時間〉 緊急避難の場（一時退避場所）

出典：防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン（改訂第２版）

■歩き出しの起点としてのオープンスペースのイメージ

駅前広場から小樽港第3号埠頭を結ぶ道路は歩行者の骨格動線（歩行者骨格軸）となり、中心市街地の回遊性は、この歩行者骨格軸と連絡する形で確保されている。

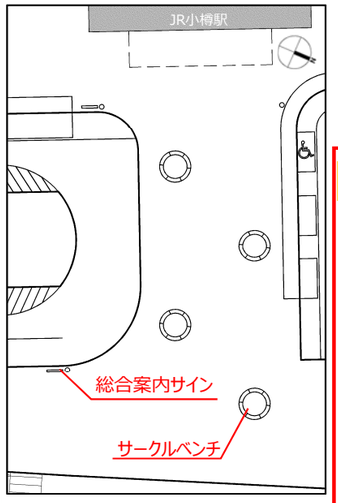
駅前広場は、この歩行者骨格軸の「歩き出しの起点」となり、駅前広場にオープンスペースを設けることにより、歩き出しの起点に滞留空間が生まれ、市街地との歩行者動線の連携が図られる。



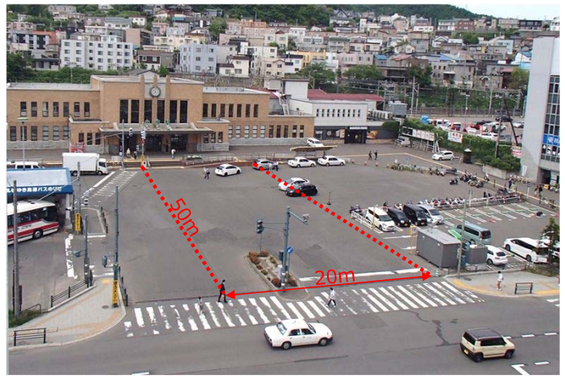
サークルベンチ設置事例
（仙台市地下鉄荒井駅前）

総合案内サイン設置事例（多言語表示）
（JR広島駅新幹線口）

◇配置イメージ



歩き出しの起点となるオープンスペースは、待合せや休憩が出来る空間として、サークルベンチの配置等を今後の詳細設計等で検討していく

■オープンスペースの大きさのイメージ（幅20m×長さ50m）

Plan①・Plan③のオープンスペースは、幅20m、長さは約50m、面積は約1,000㎡となる。